

.....編集後記.....

◇この特集の企画は、一昨年(1990)11月筑波で行われた工業技術院の第7回資源研究総合推進会議の講演を核にして、昨年5月にスタートしました。この会議で講演された資源環境技術総合研究所の横山所長、産業公害防止協会の梅崎理事をはじめとする皆様が、要職にあって極めてご多忙であるにもかかわらず、本誌に寄稿して下さいました。編集委員会として厚くお礼申し上げます。

◇また企画の段階で、資源エネルギー庁鉱業課長および環境庁長官官房審議官などを歴任された林 暉氏(現在、特殊金属備蓄協会専務理事)より貴重な助言を頂きました。厚くお礼申し上げます。ただし、構成上の不備があれば、それは編者の責任である事は言うまでもありません。

◇「21世紀の地球」を考える中で、「人口問題」は避けて通れない重要課題ですが、本誌の性格と紙数等を考慮して、この特集では取り上げておりません。この他にも取り上げることが出来なかったいろいろな課題がありますが、限られた誌面に全てを含めることはできませんでした。

◇それでも専門分野という点から見れば、この特集のカバーしている範囲は多岐にわたっています。各執筆者には、それぞれの分野では当り前の事でも、なるべく易しく解説して頂くようお願いしました。このためもあって予定ページを大幅に超過し、グラビアをカットせざるを得なくなりました。また、例年1月号に掲載していた所長の年頭挨拶も、昨年8月号の就任の挨拶

からあまり時間が経過していないため、今年は掲載しておりません。

◇この特集を企画して、そのテーマの大きさと難しさを再確認させられる事になりましたが、これはこの分野に取り組む多くの人の実感でもあるようです。テレビのコマーシャルにまで「地球に優しい」などというキャッチフレーズが氾濫する時勢にあって、時流に同調する事は簡単ですが、実際にはどうすれば優しいのか誰にとって優しいのか、いろいろな「開発」の背景にはその被害を受けた側がこれまでも厳然としてあり、場合によっては同一人が受益者と同時に被害者にもなり得るという事をどう捉えるのか、美辞麗句に包まれた策略だってあり得るのです。問題はお題目を唱えて済むようなものではない事は明らかです。地球をトータルシステムとして把握するうえで、地球科学者が果たすべき役割は大きく、それぞれの分野での地道な研究の積み重ねが求められているのは当然ですが、同時に科学技術の既存の枠組みを越えた多分野の協力が不可欠でしょう。地球の資源に限界があるというのは今では一般的な認識になったようです。しかし、限界の具体的内容とそれに備える人類の対策はまだ明確になっておりません。「21世紀の地球」を模索する道は遠く困難のように思われます。本号は、地球の資源と環境を全体として捉えようとした試みのひとつに過ぎませんが、我々の直面している問題を考える上での一助となれば幸いです。

.....副委員長 佐藤興平 記.....

地質ニュース編集委員会

委員長：佐藤壮郎  
副委員長：佐藤興平・磯部一洋  
幹事：宮崎光旗・尾上 亨  
委員：滝沢文教・岡村行信・鹿野和彦・山口 靖・  
金沢康夫・佐藤岱生・松本則夫・三田直樹・  
松浦浩久・渡部芳夫  
事務局：総務部業務課広報係(山口秀樹・斎藤賢二)  
〒305 つくば市東1-1-3 地質調査所  
地質ニュース編集委員会  
事務局 Tel. 0298-54-3520  
Fax. 0298-54-3533

地質ニュースに対するご意見は編集委員会へ

【訂正】

本誌447号(1991年11月)6ページ右段最下行の文章が、誤植のため8ページ左段最上部に印刷されてしまいました。訂正します。

原稿募集中!

購読者募集中 申し込みは編集委員会へハキガで

地質ニュース	第449号 1992年1月号
	定価 700円 実費
1992年1月1日 発行	
編集	工業技術院地質調査所
発行人	林 久
発行所	株式会社 実業公報社
	東京都千代田区九段南4の2の12
	〒102
	Tel. (03)3265-0951(代表)
	振替口座 東京1-32466
	麹町局私書箱第21号
印刷	奥村印刷株式会社

©1992 Geological Survey of Japan

●本誌は東京都の震が関政府刊行物サービスセンター、八重洲ブックセンター(株)本店およびつくば市の友朋堂書店本店に常備してあります。品切れの際は店頭で注文してください。